

はじめての

産学連携



近畿経済産業局 産学官連携推進課

はじめに

■産学連携は中小企業の新事業展開の切り札

“産学連携” 最近こんな言葉をよく耳にしませんか？

でも、「産学連携って何？」「産学連携したらどんないいことがあるの？」「産学連携するにはどうしたらいいの？」と思っていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

そんな疑問にお答えします！

産学連携には様々な形がありますが、ここでは大学との産学連携を中心に、産学連携のいろはを解説します。

このハンドブックを通じて、みなさんにとって大学が「敷居の高い存在」から少しでも「身近な存在」となり、産学連携を困ったときの1つの解決手段として考えて頂ければ幸いです。

2007年3月

近畿経済産業局 産学官連携推進課

Profile

産ちゃん

中小企業 社長



学ちゃん

大学
産学連携コーディネータ



先生

大学
理工学部 教授



目次

準備編

- 1 産学連携って何？ ----- 2
- 2 何してくれるの？（産学連携のメリット） ----- 4
- 3 どのくらいお金はかかるの？ ----- 5
- 4 どのくらい時間はかかるの？ ----- 6
- 5 どこへ行けばいいの？ ----- 6

実践編

- 1 産学連携にはどんなものがあるの？ ----- 8
- 2 産学連携はどのようにするの？ ----- 9
- 3 契約で何を決めるの？ ----- 10
- 4 契約する時の注意事項は？ ----- 11
- 5 研究費はどれくらいかかるの？ ----- 12
- 6 研究成果の特許は誰のもの？ ----- 14
- 7 企業秘密は守られるの？ ----- 16
- 8 進捗管理はどうするの？ ----- 18

事例編

- 1 (株)テック技販 × 同志社大学工学部 ----- 19
- 2 ゼロワンプロダクツ(株) × 龍谷大学理工学部 ----- 21

まとめ

- 産学連携の成功の秘訣 ----- 23

お助け隊編

- 1 大学・高専の産学連携窓口 ----- 24
- 2 こんなデータベースも便利！ ----- 31

準備編

▼産ちゃんの疑問

1 産学連携って何？



最近“産学連携”ってよく聞きますが、一体何ですか？

大学の先生から技術の指導を受けたり、先生と一緒に技術的な課題を解決し、新製品や新技術の開発をすることなどを言います。一言で言うと、大学の豊富な知恵を活用するというイメージです。

でも、大学は敷居が高いイメージがあるのですが、私達中小企業でも相手にしてくれるのでしょうか？



確かに大学は「象牙の塔」のイメージがありましたが、今では、随分オープンになってきています。

なるほど。中小企業でも気軽に大学に行って相談できるようになったとは便利ですね。でも実際みなさん大学をどのくらい利用しているのですか？



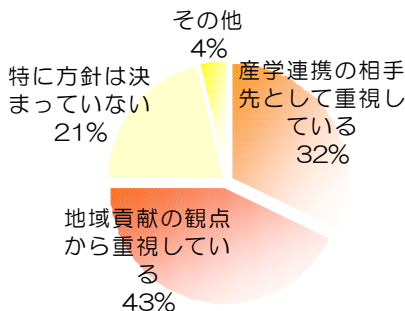
それが、中小企業の利用は少ないのです。アンケートでも大学の産学連携件数のうち約 18%が中小企業で、あとは大企業が大部分を占めています。

まだまだ中小企業にとって大学は敷居が高いというイメージが強いようです。それに、大学をどのように活用するかわからないという方が多いのではないのでしょうか。でも最近、中小企業との産学連携を重視して産学連携のための窓口を設置する大学も増えています。

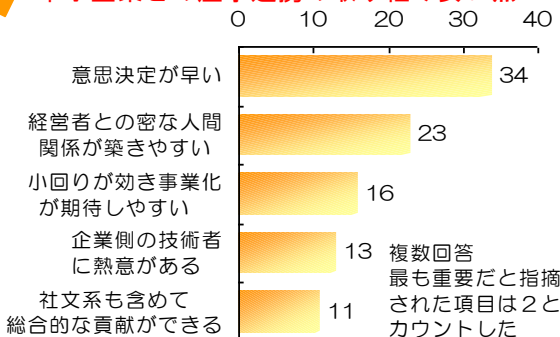
学ちゃんの独り言

中小企業にとっても新製品や独自商品の開発はますます必要になっていきます。しかし研究開発の要員や時間が限られる中小企業にとって、それは簡単なことではありません。そこで、大学の豊富な知恵を活用することで、そのようなハンデを克服することも可能になるのです。このハンドブックをご覧になったのも何かのご縁、これを機会に産学連携の活用について検討されてはいかがでしょうか。

Data 中小企業との連携に対する大学の意識



Data 中小企業との産学連携の取り組み安い点



出典：近畿経済産業局「産学連携の裾野拡大における外部機関の活用」アンケート調査（平成19年2月実施）

注：回答は近畿内の28大学・高専

▼産ちゃんの疑問

2 何してくれるの？（産学連携のメリット）

大学が何をしてくれるのかよく知らないのですが、産学連携をしたら一体どんないいことがあるのですか？



大学がみなさんのお役に立てることは沢山あります。

例えば、

- ・ 技術課題を克服する知恵を出して、技術力の強化を助けてくれます
- ・ 大学での研究成果を新製品開発に役立てることが出来ます
- ・ 製品の性能や効能をデータで実証できて、製品の信頼性が増します

新製品の性能も分析してくれるのですか！それは助かりますね。大学が評価してくれると商品の信頼性もアップします。他には何かありますか？

間接的ですが、こんな効果もあると言われていました。

例えば、

- ・ 学識者との人脈ができる
- ・ 大学と連携することが自社の信用力や認知度向上につながる
- ・ 優秀な人材を採用するきっかけになる



ふーん、なるほど。大学は知名度が高いから産学連携すること自体が宣伝にもなるわけですね。

結果的にそういう場合もありますが、大学の名前を利用したいだけのために産学連携するのは困ります。中身があってこそ初めて産学連携が生きてくるのです。中小企業にとっては大学を活用するメリットは大きいと思いますよ。

確かに話を聞いているとそう思いますね。

▼産ちゃんの疑問

3

どのくらいお金はかかるの？

でも、お金はどれくらいかかるのですか？まさかタダではないですよね。

もちろん無料ではありません。お金はかかります。



やっぱり高いんじゃないですか？

金額は内容にもよりますが、比較的少額で済んでいるケースもあるようです。詳しくは12ページで説明します。

思ったような成果が出なくてもお金を払わないといけないのですか？

そうですね。一般的には結果に関係なくお金を払います。



▼産ちゃんの疑問

4 どのくらい時間はかかるの？

開発を急ぐ場合は早く研究してくれるのですか？

大学の先生は、産学連携以外にも授業や先生自身の研究活動等多くの仕事を抱えていますので、なかなか企業の思い通りに進まない場合もあります。
だから初めからスケジュールは余裕を持って決めておく必要がありますし、研究中も先生とのコミュニケーションを密にすることが大切です。



▼産ちゃんの疑問

5 どこへ行けばいいの？

産学連携したい場合にまずどこへ行ったらいいのですか？大学の先生に知り合いがないのですが。



先生に知り合いがいなくても全く心配はありません。先ほども言ったように、大学はかなりオープンになってきていて、各大学では産学連携専用の窓口を設けて、案内役や相談員を置いている場合もありますので、まずはこのような窓口にご相談するのがいいでしょう。詳しくは24ページ以降をご覧ください。

でも、どの大学に行けばいいかわからないのですが…。沢山ある大学の中からどうやって大学を選べいいのでしょうか？



そうですね。そんな方々のために例えば 31 ページのように、大学のシーズを集めて紹介している冊子やインターネット上のサイトもありますよ。

また、初めから直接大学に行かなくても、他で大学を紹介してくれるところもあるんですよ。例えば、商工会議所等の中小企業支援機関や、中には銀行や信用金庫の一部でも紹介してくれるところもあります。

ああ、最近そう言えばそんなところから、マッチングフェアの案内がよく来ます。でも沢山ありすぎてよくわからないんですよ。



そういったイベントでは、技術発表会をしていたり、企業や大学がブース展示をしています。まずはそういった場に一度参加してみて雰囲気だけでも見に行ってみてはどうでしょう。

そうですね。一度行ってみます。
これで産学連携のイメージが大体分かったような気がしますが、実際に産学連携するにはどうしたらいいのでしょうか？

はい、それは実践編で見てください。

実践編



▼産ちゃんの疑問

1

産学連携にはどんなものがあるの？

さあいよいよ産学連携を始めます。ここでは産学連携を初めてやってみようとする方向けに、産学連携に取り組む際のポイントを解説し、成功するための秘訣を整理します。

産学連携とは、大学の技術や知見を産業に活用させることをいい、代表的な方法として、以下のものがあります。

【共同研究】大学が企業などから共同研究員を受け入れ、共同で研究を行います。

【受託研究】企業などから委託を受けて大学の研究者が研究を行います。

【奨学寄附金】大学が企業などから学術研究や教育の充実などの目的のために受け入れる寄附金です。

この他、技術指導、知的財産のライセンス、依頼分析や装置利用などもあり、また、技術以外にもデザイン、産業人材の育成等幅広く産学連携が行われています。

今、各大学では、中小企業の皆様に大学をより活用してもらえるように、様々な連携メニューを用意しています。詳しくは各大学のホームページや産学連携窓口(24ページ以降参照)へお尋ねください。



▼産ちゃんの疑問

2 産学連携はどのようにするの？

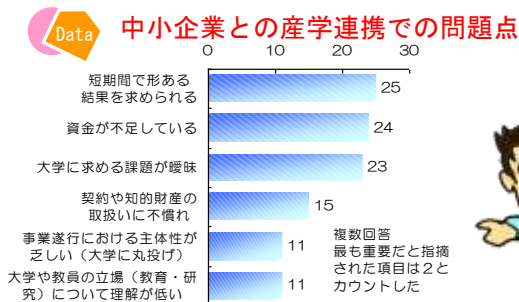
産学連携の中でも一般的な「共同研究」と「受託研究」について産学連携のプロセスを見てみましょう。

まず産学連携は大学への相談から始まり、先生や大学の産学連携窓口にいる担当者と一緒に、研究内容や期間などの条件を打合せ、連携の内容が固まったら大学と契約を行います。そして実際に大学の研究室や企業内の設備・データなどを活用しながら研究を実施し、成果が出て完了します。

相談 → 条件交渉 → 契約 → 研究実施 → 成果(完了) 報告

学ちゃんの独り言 大学が相談されて困るのは・・・

産学連携を行うには、まず大学を活用する目的をはっきりさせることが大切です。「夢をかなえたい」、「何でもいいから研究して欲しい」、「大学の名前を使いたい」などでは、いきなり大学にもって行っても受け付けてもらえないことがあります。



出典：近畿経済産業局「産学連携の裾野拡大における外部機関の活用」アンケート調査（平成19年2月実施）

注：回答は近畿内の28大学・高专

Point

■ 自社の課題や大学を活用する目的をはっきりさせてから

▼産学連携を成功させるために

3

契約で何を決めるの？

共同研究契約では、下記の項目を中心に全体計画等を取り決めることが一般的です。

- 研究題目
- 研究目的
- 研究内容
- 研究期間・研究スケジュール
- 研究分担
- 研究経費の分担
- 研究実施場所

大学側に契約書の雛形がある場合、それを活用することが多くなっていますが、企業側が作成してもかまいません。

もし先生との間で、意識の違いがあるまま研究を始めると、後に、希望していた研究がされなかったり、成果が出るまで思わぬ日数が経過してしまうなど、トラブルの元となります。

契約交渉に当たっては、後のトラブルを回避するためにも、大学の産学連携窓口と先生と企業の3者が面談の上、みんなが納得することが肝心です。

Point

- 大学の産学連携窓口、先生、企業の3者が面談して、納得いくまで交渉



▼産学連携を成功させるために

4

契約する時の注意事項は？

契約する時には、特に以下の点に注意しましょう。

契約段階において、研究内容とともに研究目標を示し、大学の産学連携窓口や先生と一緒にその目標を共有することが重要です。契約書上ではっきりした数値目標を決めることができない場合は、数値目標以外で両者が共通の認識を持つようにしましょう。

Point

- 研究目標はなるべく数値で明確に
- 大学の産学連携窓口や先生と共通認識を



先生は産学連携以外にも授業や先生自身の研究活動等多くの仕事を抱えており、産学連携には時間がかかる場合もありますので、短時間で成果を求めない方がよいでしょう。

Point

- 短時間で成果を求めない



▼産学連携を成功させるために

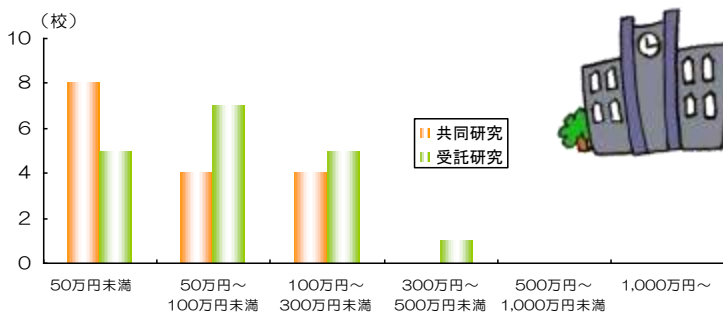
5 研究費はどれくらいかかるの？

研究費の額は、研究内容によって決まります。研究の難しさや研究期間、企業の研究員の派遣の有無等で大きく異なり、数千万円かかるものもあれば、50万円程度で済むものまで様々です。

平成19年2月に実施した大学へのアンケートの結果では、大体中小企業の場合は50万円から300万円くらいで産学連携を実施しているケースが多いようです。

経費の内訳としては、産学連携をする上で直接発生する直接経費（備品費、消耗品費などに係る実費）と、間接的にかかる「間接経費」に分けられます。

Data 研究費の相場（最も頻度の高い金額は？）



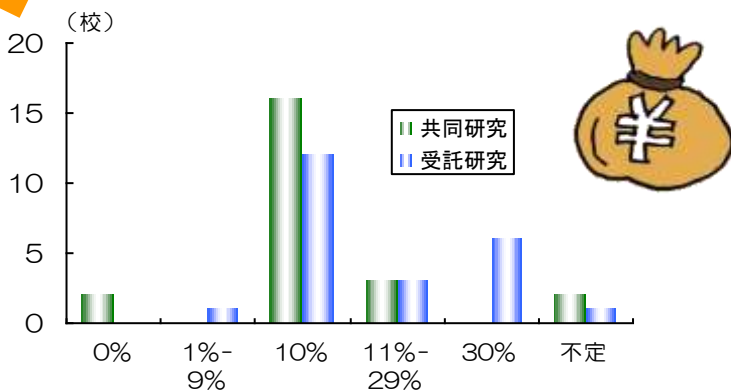
出典：近畿経済産業局「産学連携の裾野拡大における外部機関の活用」アンケート調査（平成19年2月実施）

注：回答は近畿内の28大学・高専

学ちゃんの独り言 間接経費とは

大学が直接経費とするのは、備品費、消耗品費、直接人件費など研究の実施に伴って直接発生する実費のみで、例えば光熱費や施設使用料などは含まれていません。間接経費は、産学連携の実施に関連して間接的に発生する費用のことで、大学の事務部門の経費や産学連携推進窓口の経費、研究棟の維持管理費など、産学連携をすることによって発生する大学の維持・管理費用を企業に分担していただくというものです。徴収は直接経費に一定の料率をかけた金額が一般的で、大学により料率は異なりますが、大体 10%~30%です。

Data 間接経費の料率（相場）



出典：近畿経済産業局「産学連携における取り決めに関するアンケート」（平成 18 年 3 月実施）

注：回答は近畿内の 21 大学

Point

■直接経費の他に「間接経費」もかかることが一般的

▼産学連携を成功させるために

6

研究成果の特許は誰のもの？

研究成果に発明が含まれる場合、その特許を受ける権利は、発明した人のものですので、受託研究の場合は大学が所有し、共同研究の場合は役割に応じて大学と企業が共有することになります。共有持分については共同研究契約によって交渉で柔軟に決めることができます。共有特許については、企業は自由に実施することができますが、大学が実施することはほとんどないので、企業が「不実施補償」などと呼ばれる実施料を大学に支払う場合があります。また大学の持分について有償で譲渡を受けることも可能です。

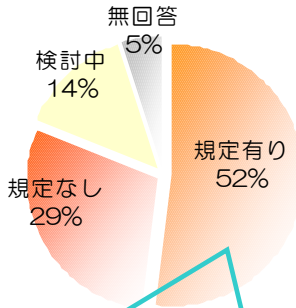
学ちゃんの独り言 不実施補償とは

共有特許の実施の場合、企業は共有特許の実施により利益を享受することが可能ですが、大学は通常それを活用して製品を開発するわけではないので、大学にはその特許の利益を享受することはできません（もちろん第三者へライセンスや譲渡して利益を得ることは出来ます）。そこで、大学としては、発明者である先生の貢献に報い、研究意欲の高揚のため、また特許維持・管理費用をまかなうために、企業が実施する際に、大学が企業から実施料をもらおうとするものです。しかしこの徴収方法や金額については各大学により異なっていて、また柔軟に対応していますので、各大学に相談してください。

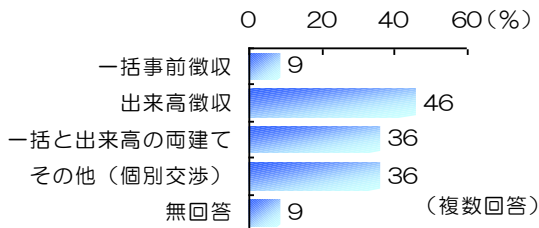




不実施補償について



不実施補償の支払方法



出典：近畿経済産業局「産学連携における取り決めに関するアンケート」（平成 18 年 3 月実施）

注：回答は近畿内の 21 大学

Point

- 生まれた特許は、受託研究では大学のもの
共同研究では役割に応じて、企業と大学が共有

▼産学連携を成功させるために



企業秘密は守られるの？

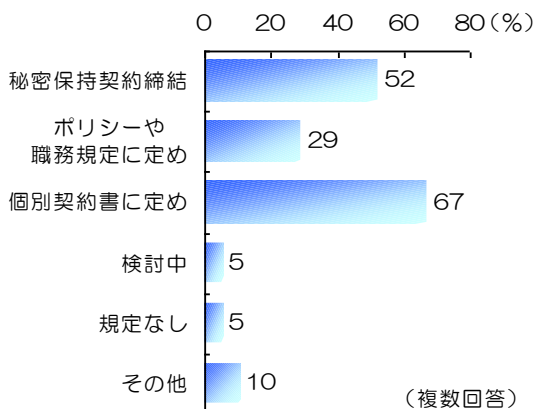
産学連携に際して、企業側から大学に秘密情報が開示されることもあり、大学の情報管理体制を懸念する声もありますが、多くの大学で職務規程の中に秘密保持条項を設けていたり、個別の契約において秘密保持に関する取り決めがなされており、先生からの秘密流出は心配しなくてもいいでしょう。

ただし、大学に対して秘密情報の範囲と重要度のレベルを明確に示すことが重要です。特に重要度の高い秘密情報については、必要以上に開示しない等、自ら防衛策を講じることも必要です。

また、大学は教育・学術研究機関であり、研究成果はいずれ学会や論文発表により公表されるものであることから、発表時期等については事前に知らせてくれるように契約時にしっかり確認することが重要です。



秘密保持に関する取り決めについて



出典：近畿経済産業局「産学連携における取り決めに関するアンケート」(平成 18 年 3 月実施)

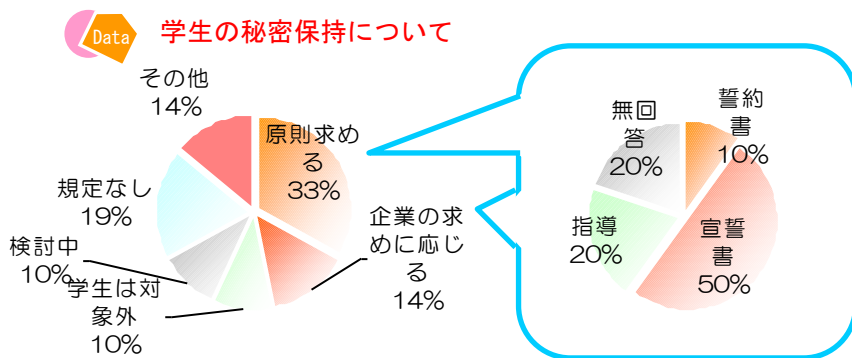
注：回答は近畿内の 21 大学

学ちゃんの独り言 学生の守秘義務

学生は大学との雇用関係にないため、職務規定もありませんし、契約で強制することは出来ません。だから学生・院生に対しては、先生を通して秘密保持を指導してもらうことが必要です。

また、研究に係る秘密情報の重要度のレベルに応じ、研究費の規模等も考慮して、学部生にも関与させるもの、博士課程以上とするもの、学生を関与させずにポストクに限定するものなど、産学連携の体制にバリエーションを持たせることも検討してはどうでしょうか。

なお、近畿の半数近くの大学では、何らかの形で学生にも秘密保持を課しています。



出典：近畿経済産業局

「産学連携における取り決めに関するアンケート」（平成 18 年 3 月実施）

注：回答は近畿内の 21 大学

Point

- 大学に対して秘密情報の範囲と重要度のレベルを明確にすることが必要
- 先生には論文発表前に連絡してもらうことを確認
- 学生には守秘義務を課することが難しいので、先生を通して指導してもらうことが肝心



8

進捗管理はどうするの？

実際に連携事業が始まってからは、先生とのコミュニケーションを大切にすることが最も重要です。

「偉い先生なので待っていればいい結果を出してくれるだろう」と思って、放っておいては後で大きなトラブルになる場合もあります。進捗管理については、先生が十分に管理できない場合があることを考慮して、企業が主体的に管理をしていくことが大切です。そのためには、日頃から先生とのコミュニケーションをとることが重要なのです。もし、直接先生に言いづらいなら、産学連携窓口やコーディネータに相談しましょう。また、定期的に打ち合わせや報告の場を設けることも大切です。研究は計画通りに進むとは限りません。そのような場で、打ち合わせの上、双方納得しながら軌道修正することも必要です。研究の方向が変われば柔軟に研究手法を見直すことが肝心なのです。



Point

- 進捗管理は企業が主体
- 最も大切なのは先生との密なコミュニケーション

事例編

これまで、産学連携に取り組む際のポイントについて見てきましたが、具体的な事例をみないと実感がわかないかもしれません。そこで、ここでは実際に産学連携で成功した中小企業の事例をご紹介します。

1

株式会社テック技販 × 同志社大学工学部辻内伸好教授

先生の専門的で独自の視点を活用し、センサ業界で画期的な「3軸力学センサ」の商品化に成功

PROFILE

株式会社テック技販

代表取締役 瀧瀬 和美

本社：奈良県北葛城郡広陵町 事業所：京都府宇治市

事業：各種特殊センサの設計、製作及び販売

URL <http://www.tecgihan.co.jp/>

平成3年、大手センサメーカーから独立し、センサの販売代理店を開業、平成6年頃から産学連携をきっかけに特殊センサの設計、製造にも参入し、各種センサ、計測ソフトウェア開発で、新たな計測技術に挑み続けている。



連携概要

同社はセンサ機器大手の京都・滋賀地域の販売代理店として主に大学向けにセンサ機器を販売していたが、その縁で同志社大学工学部の辻内伸好教授から、研究用のロボットハンドの先端にセンサをつけることができないかと相談されたことがきっかけに共同研究を始めた。それ以来ほかの大学からもセンサの開発相談が持ち込まれるようになり、小回りの効く中小企業のものづくりが、スピードと細かい仕様の設定が要求される大学の実験機器需要にマッチしていることから、技術者を入れて、本格的なものづくりを始めることになった。

平成14年に、センサ機器業界で以前から摩擦力を測定するリーズナブルなセンサがないことが懸案であったことから、その研究開発を辻内教授に提案、縦、横、斜め方向の力を測定する3軸力学センサの共同研究に取り組んだ。同社の徹底的な市場調査の上、平成15年から実用化開発を開始、平成18年に完成、その4月から発売に入った。大学や学会をターゲットにPRを行うと、画期的なセンサであることから反響が大きく、年間70台売れる商品となった。

企業の声



企業と先生の役割分担を教えてください

当社が作った試作の評価に基づいて、先生が違った視点から評価やアドバイスを加え、当社がそれを実現するというスタイルをとりました。

産学連携でどんな成果がありましたか？

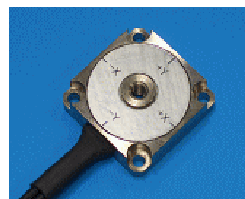
先生は、その分野の最新の情報を知っています。先見性も優れていることで、我々の開発の方向性を決めるのに役立ちました。また我々が思いもつかなかった視点でアドバイスをいただいて助かりました。さらに連携による研究成果が論文で発表されることで、メーカー側もユーザー側にも信頼性が増すことになりました。これは大学による理論武装のおかげだと思えます。

成功した要因は何ですか？

先生に丸投げしていないことがよかったと思います。あくまでも当社が主体で開発し、先生にはアドバイスをもらうだけです。また企業秘密の流出についても問題はありませんでした。というのも、先生が論文発表をされる際には、必ず事前に内容の照会を受け、企業として出せる範囲の情報を当社で管理していたからです。また事業自体が先生の研究の主テーマになっていたのも、先生としてもやりやすかったでしょう。

産学連携成功のためのアドバイスは？

ものをつくるために研究することを忘れてはいけません。主導はあくまでも企業です。また、連携をする上で、先生の人柄は最も大切で、前向きで熱心に耳を傾け、対話してくれる先生を選びたいものです。互いに興味のあるパートナーを見つけたら、共に考え、役割分担を明確にすることも必要です。大学はうまく使えば、必ず企業にとってプラスになります。共同研究以降も長い関係が続くため企業にとって大きな財産になるからです。ぜひ皆さんも一歩踏み出して欲しいと思います。



【小型3軸力覚センサ】
詳しくは当社 HP をご参照
<http://www.tecgihan.co.jp/>

ゼロワンプロダクツ(株) × 龍谷大学理工学部 大柳満之教授

先生のアドバイスを受け、ツキ板への樹脂含浸により柔軟で耐久性のある天然木シートの開発・実用化に成功

PROFILE

ゼロワンプロダクツ株式会社
代表取締役 樋口 伸一
本社：大阪市天王寺区上汐

URL <http://www.zeroone-pro.com/>

1992年創業。1999年、龍谷大学と天然木新素材の共同研究開始。2004年日本国、2005年米国特許取得（天然木自在シート/テナージュ）。2006年、テナージュを経糸に使用した京織物、木織テナージュを開発。それらを使用したバッグ等独創的製品を製造・販売。



連携概要

「縫える木」を開発するために始めた龍谷大学大柳満之先生との共同研究が全てのスタートラインでした。龍谷大学のレンタルラボに入居し、共同研究において天然木を薄くスライスして得られる「ツキ板」に高分子を充填し柔軟で強度もある新素材「天然木自在シート/テナージュ」を開発しました。この成果は日本、米国で特許権を取得し、従来にはなかった天然木製品が実現しました。最近では、更にそのテナージュを経糸にして自動織機で織り上げた「木織テナージュ」へと進化しました。



第3回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞

木目を正確に再現した織物製品

企業の声



企業と先生の役割分担を教えてください

木の中にプラスチックを浸透させるという仮説に基づいて「なまの木を縫える木」にする原理や理論の構築をしていただいたのが先生で、我々はその方法論のご指導をいただいて、レンタルラボにおいて実証するための実験を大学と共同で実施しました。

産学連携でどんな成果がありましたか？

1999年に大学のレンタルラボに入居し、高分子を充填した柔軟で強度もある新素材「天然木自在シート／テナージュ」を開発しました。2001年には、より安全性を追求した天然木自在シート「テナージュ」の実用化に成功し、日本のみならずアメリカでも特許を取得しました。最近では、特に木織テナージュを活用したトートバッグやパナソニックの照明傘、エプソンのノートパソコン、iPod ケース等を販売。また、シャープ製のソフトバンク携帯電話のテクスチャに、テナージュのエポニー（黒檀）が採用されるなど、世界から注目を集めています。

成功した要因は何ですか？

後進ブランドであっても大手に対抗できる商品開発を行うことを目的に、世界で初めて「天然の木を縫って鞆が作りたい」との思いを先生が「それは面白いなー」と言って相手にしていただいたおかげで実現できました。論文にならない研究はやらないという先生が多い中、先生はわかりやすく理論の説明をされ、目標をはっきりすることができました。

産学連携成功のためのアドバイスは？

実際に開発をイメージする商品が明確であることで、先生も研究を進める手法をイメージすることができたのではないかと思います。大学のリエゾンが積極的に関わってくれたおかげで、共通の目的とイメージを持つことができました。また、社長と研究開発を行う社員の意思疎通、大学の現場の学生や先生との関わり、リエゾンの方々との連携も重要です。

まとめ



▼これだけは押さえない

産学連携の成功の秘訣

これまで説明してきた産学連携に取り組む際のポイントや、実際の成功事例から産学連携を成功に導くための秘訣をまとめます。

秘訣1 目的意識を持つ

「大学へ行けば何かしてくれる」、「大学の名前を利用したい」といった安易な考えでは先生も困ります。新製品開発の際の技術的課題を解決したいなど、具体的な目的意識を持つことが大切です。

秘訣2 条件交渉は納得いくまで行う

産学連携は、はじめが肝心です。先生と企業とで、目的意識がずれていれば、後にトラブルの原因にもなります。契約時には大学、先生、企業の3者が面談の上、目的や期限、費用負担などの条件を、納得いくまでつめておくことが大切です。

秘訣3 主体性を持つ（丸投げは禁物）

産学連携の主役は、大学を活用する企業です。産学連携は企業が主導で進めましょう。特に、進捗管理や情報管理はしっかり行いましょう。

秘訣4 大学の立場を理解する

大学の本来のミッションは教育と研究であり、売れる商品をつくって企業の収益を高めるという企業のミッションとは異なります。まずはこのような大学の立場を理解し、尊重した上で、対民間企業とは異なるスタンスで産学連携に臨む必要があります。

秘訣5 大学・先生とのコミュニケーションを密に

産学連携も人と人とのつながりが基本です。いくら厳密な契約を結んでも、人間同士の関係が出来ていなければうまくいきません。円滑な産学連携のために、大学・先生とのコミュニケーションを密にすることが最も重要です。

お助け隊編

▼まずはここへアクセス!

1

大学・高専の産学連携窓口

※近畿経済産業局「産学官連携推進実務者会議」メンバー

大学

(福井)

福井大学 産学官連携本部

〒910-8507 福井市文京 3-9-1

TEL 0776-27-8956 (産学官連携室)

<http://www.cr-center.u-fukui.ac.jp/>



福井県立大学 研究推進課

〒910-1195 福井県吉田郡松岡町兼定島 4-1-1

TEL 0776-61-6000 (内 1018, 1019)

http://www.fpu.ac.jp/008_sangakukan/

福井工業大学 産学共同研究センター

〒910-8505 福井市学園 3-6-1

TEL 0776-22-8111

http://www.fukui-ut.ac.jp/ut/01dep/hcx/hcx_index.html

(滋賀)

滋賀大学 産学共同研究センター

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1

TEL 0749-27-1141

<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/jrc/>

滋賀医科大学 産学連携推進機構

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL 077-548-2082 (研究協力課)

<http://www.shiga-med.ac.jp/sangaku/committee.html>

滋賀県立大学 地域産学連携センター

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

TEL 0749-28-8604/8610

<http://www.mech.usp.ac.jp/~rlab/>

立命館大学 研究部 理工リサーチオフィス

〒522-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1

TEL 077-561-2802

http://www.ritsumeit.ac.jp/b-liaison/index_j.html

龍谷大学 龍谷エクステンションセンター (REC)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5

TEL 077-543-7743

<http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/>



(京都)

京都大学 産官学連携本部

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-5536 (産官学連携課)

<http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/>

京都工芸繊維大学 創造連携センター

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋

TEL 075-724-7933

http://www.kit.ac.jp/04/04_010000.html

京都府立大学 地域連携センター

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

TEL 075-703-5147 (企画室)

http://ballerina.kpu.ac.jp/category_list.php?frmCd=6-2-0-0-0

同志社大学 リエゾンオフィス

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3

TEL 0774-65-6223

<http://liaison.doshisha.ac.jp/>

京都産業大学 リエゾンオフィス
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
TEL 075-705-1778
<http://www.kyoto-su.ac.jp/liaison/>

京都学園大学 リエゾンセンター
〒621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条大谷1番地1
TEL 0771-29-3592
<http://www.kyotogakuen.ac.jp/NXT/Liaison/>

(大阪)

大阪大学 産学連携推進本部
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1
TEL 06-6879-4206 (総合企画部)
<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/index.html>



大阪府立大学 産学官連携機構
〒599-8531 大阪府堺市学園町1-1
TEL 072-254-9124/9107 (研究連携推進課)
<http://www.osakafu-u.ac.jp/research/>

大阪市立大学 新産業創生研究センター
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
TEL 06-6605-3468
<http://www.osaka-cu.ac.jp/cooperation/rcii/>

大阪産業大学 産業研究所
〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1
TEL 072-875-3001 (事務室)
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/sanken/>

関西大学 社会連携部 産学官連携センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-1245
<http://www.kansai-u.ac.jp/renkei/industry/>

近畿大学 リエゾンセンター (KLC)

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1

TEL 06-6721-2332 (学術研究支援部)

<http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/KLC/>

大阪電気通信大学 研究支援室

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町 18-8

TEL 072-824-1131

<http://www.osakac.ac.jp/oecu/cooperation/>



大阪工業大学 リエゾンセンター

〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1

TEL 06-6954-4140

<http://www.oit.ac.jp/japanese/sangaku/>

摂南大学 地域連携センター

〒572-0042 大阪府寝屋川市東大利町 2-14

TEL 072-829-0385/0386

<http://www.setsunan.ac.jp/j/chiiki/>

関西医科大学 産学連携知的財産統括課

〒570-8506 大阪府守口市文園町 10-15

TEL 06-6993-1001 (内 2212)

<http://www.kmu.ac.jp/>

東北大学金属材料研究所 附属研究施設大阪センター

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-2

大阪府立大学産学官連携機構内 801 号室

TEL 072-254-6372

<http://www.osakacenter.imr.tohoku.ac.jp/>

香川大学 サテライトオフィス大阪

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

大阪大学中之島センター5階 504号

TEL 06-6444-2139

<http://www.kagawa-u.ac.jp/itwinfo/i1727/>

(兵庫)

神戸大学 連携創造本部

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

TEL 078-803-5945

<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/>

兵庫県立大学 産学連携センター

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-3-3

TEL 078-367-8639

<http://www.u-hyogo.ac.jp/industry/>

関西学院大学 研究推進社会連携機構

〒669-1337 兵庫県三田市学園 2-1

TEL 079-565-9052

<http://www.kwansei.ac.jp/kenkyu/>

甲南大学 フロンティア研究推進機構

〒658-8501 神戸市灘区岡本 8-9-1 甲友会館

TEL 078-435-2754

<http://www.adm.konan-u.ac.jp/front/>

神戸学院大学 研究支援グループ

〒651-2180 神戸市西区井川谷町有瀬 518

TEL 078-974-1551

<http://www.kobegakuin.ac.jp/>

神戸女子大学 総務部 事業課

〒654-8585 神戸市須磨区東須磨青山 2-1

TEL 078-731-4416

<http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/wu/>



兵庫大学 事務局 学事課

〒675-0195 兵庫県加古川市平岡町新在家 2301

TEL 079-427-5111

<http://www.hyogo-dai.ac.jp/>

(奈良)

奈良先端科学技術大学院大学 産官学連携推進本部

〒630-0101 奈良県生駒市高山町 8916-5

TEL 0743-72-5930 (産官学推進室)

<http://ipw.naist.jp/sankan/>

奈良女子大学 産学官連携推進部門

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL 0742-20-3734

<http://www.nara-wu.ac.jp/liaison/>

畿央大学 総務部 事業課

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中 4-2-2

TEL 075-54-1603

<http://www.kio.ac.jp/>

(和歌山)

和歌山大学 地域共同研究センター

〒640-8510 和歌山市栄谷 930

TEL 073-457-7552

<http://www.wakayama-u.ac.jp/kikaku/chiiiki/>

和歌山県立医科大学 産官学連携推進本部

〒641-8509 和歌山市紀三井寺 811-1

TEL 073-441-0801 (事務局 企画課)

<http://www.wakayama-med.ac.jp/sankangaku/>



工業高等専門学校

福井工業高等専門学校 地域連携テクノセンター

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL 0778-62-1881

<http://www.fukui-nct.ac.jp/~arc/>

舞鶴工業高等専門学校 地域共同テクノセンター

〒625-8511 京都府舞鶴市字白屋 234 番地

TEL 0773-62-8888

<http://www.maizuru-ct.ac.jp/gakkoshokai/kakushisetu/techno/index.htm>

明石工業高等専門学校 テクノセンター

〒674-8501 兵庫県明石市魚住町西岡 679-3

TEL 078-946-6148 (研究協力・広報係)

<http://www.akashi.ac.jp/contents/Techno/techno.html>

神戸市立工業高等専門学校 地域協働研究センター

〒651-2194 神戸市西区学園東町 8 丁目 3 番地

TEL 078-795-3311 (代表)

<http://www.kobe-kosen.ac.jp/kyoudou/>

大阪府立工業高等専門学校 産学交流室

〒572-8572 大阪府寝屋川市幸町 26 番 12 号

TEL 072-821-6401 (代表)

<http://www.osaka-pct.ac.jp/>

奈良工業高等専門学校 産学交流室

〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町 22

TEL 0743-55-6000 (代表)

<http://www.nara-k.ac.jp/jimu/kigyou/>

和歌山工業高等専門学校 地域共同テクノセンター

〒644-0023 和歌山県御坊市名田町野島 77

TEL 0738-29-2301

<http://www.wakayama-nct.ac.jp/sisetsu/techno/techno-gaiyou/techno-gaiyou.htm>

近畿大学工業高等専門学校 リエゾンセンター

〒519-4395 三重県熊野市有馬町 2800

TEL 0597-89-2011 (代表)

<http://www.ktc.ac.jp/ken9/liaison.htm>



▼まずはここへアクセス

2

こんなデータベースも便利！



近畿地域における大学等研究者技術シーズ

<http://www.kansai.meti.go.jp/2giki/kansai-seeds/seeds-top.html>
近畿地域の大学・高専の技術シーズをキーワードや学校別、研究者別などで検索し、応用例など概要を知ることができるサイトです。

はじめての公設試・産総研 公的研究機関は中小企業の知恵袋

<http://www.kansai.meti.go.jp/2giki/sangiren/guidebook/gaidebook.htm>
近畿地域の主要な公設試及び産総研関西センターを活用した中小・ベンチャー企業の活用事例や、各機関の得意分野などをわかりやすく紹介した冊子です。

研究開発支援総合ディレクトリ (Read)

<http://read.jst.go.jp/>
国内の大学・公的研究機関等に関する機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を網羅的に収集・提供しているサイトです。

産学官の道しるべ

<http://sgk.jst.go.jp/>
全国の産学官連携に関連する情報を網羅的に収集しているサイトです。

J-STORE

<http://jstore.jst.go.jp/>
大学・公的研究機関、JST等の技術移転可能な特許情報等を掲載しているデータベースです。

技術シーズ統合検索システム e-seeds.jp

<http://e-seeds.jp/>
大学等が作成している技術シーズ集や研究情報の一元的な検索と、研究室や産学連携窓口への直接アクセスが可能なサイトです。

大学等と中小企業との産学官連携促進等に関する調査

はじめての産学連携

2007年（平成19年）3月 発行

2010年（平成22年）1月 改訂

発 行 近畿経済産業局地域経済部産学官連携推進課
〒540-8535 大阪市中央区大手前 1-5-44
T E L 06-6966-6164

編集協力 りそな総合研究所株式会社
〒540-8610 大阪市中央区備後町 2-2-1
りそな本店ビル 8階
T E L 06-4705-3586

